

《履修上の留意事項》遠隔授業のみで実施

《担当者名》○鈴木英樹 長谷川純子 朝日まどか 浅野葉子

【概要】

身体的・精神的障がいを持ち、社会的支援を必要とする当事者や家族について、その生活の実態を把握する。また当事者のニーズに基づいた社会制度の活用方法を探り、差別・偏見を克服するための活動を学ぶことで、人間存在の多様性とエンパワメントの視点を有したリハビリテーション実践法を理解する。

【学習目標】

一般目標

リハビリテーションの対象となるヒトの「生活」を理解するために、地域在住高齢者や障がいを有する方々の日々の生活の様子に関する話や意見交換を通じて、具体的な生活のしづらさや工夫などについて説明できる。

行動目標

1. 障がいを有しながら日々生活されている方々の日常生活のお話を通して生活の中での工夫や問題について列挙することができる。
2. 国際生活機能分類（ICF）に照らし合わせながら、その方の生活機能を整理することができる。
3. 障がいを有する方やその家族の方にとって、リハビリテーション専門職がどのような役割を果たしているのかを列挙することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	講義オリエンテーション 障がい当事者や家族の語りから学ぶ意義	講義の位置づけ、進め方、評価方法等に関する説明 国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）について 障がい当事者や家族の語りから学ぶ意義	鈴木英樹 浅野葉子
2	障がい特性（身体障がい）についての理解	障がい特性（身体障がい）について理解	浅野葉子
3	障がい当事者による特別講義 → レポートに代替え	脳血管障がいの方の生活を理解する	浅野葉子
4	障がい当事者による特別講義 → レポートに代替え	神経系疾患の方の生活を理解する	長谷川純子 浅野葉子
5	障がい者当事者による特別講義 → 事例提示に変更	脊髄損傷の方の生活を理解する。模擬事例についてICFで整理する。	長谷川純子 浅野葉子
6	前半のまとめ→レポートに代替え	障がい当事者の方や家族の方の生活を振り返り、生活支援者としてのセラピストの役割を理解する	浅野葉子
7	障がい者当事者による特別講義 → レポートに代替え	免疫障がいの方の生活を理解する	朝日まどか
8	障がい特性（発達障がい）についての理解	障がい特性（発達障がい）について理解	浅野葉子
9	障がい当事者による特別講義 → 事例提示に変更	発達障がいの方の生活を理解する。模擬事例についてICFで整理する。	浅野葉子
10	障がい特性（精神障がい）についての理解	障がい特性（精神障がい）について理解	朝日まどか
11	障がい当事者による講義 → 事例提示に変更	精神障がいの方の生活を理解する。模擬事例についてICFで整理する。	朝日まどか
12	障がい特性（認知症）についての理解	障がい特性（認知症）について理解	鈴木英樹
13	障がい当事者による講義	認知症の方とその家族の生活を理解する。遠隔にて特別講師による講義。	鈴木英樹

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
14	地域在住高齢者の生活についての理解→障がい当事者による講義	地域在住高齢者の生活を理解する→遠隔にて特別講師による講義。脊髄損傷の方の生活を理解する。	鈴木英樹
15	まとめ	障がい当事者の方や家族の方の生活を振り返り、生活支援者としてのセラピストの役割を理解する→模擬事例のICF例の紹介。	鈴木英樹 浅野葉子

【評価方法】

リアクションペーパーにて100%評価する。→リアクションペーパー70%、レポート30%。

【備考】

教科書：必要に応じて資料を配布する。

参考書：障害者福祉研究会 編 「ICF 国際生活機能分類～国際障害分類改訂版」 中央法規出版 2002年
宮崎和加子 著 「認知症の人の歴史を学びませんか」 中央法規出版 2011年
伊丸岡壽信 著 「あなたはひとりじゃない～パーキンソン病と向き合って」 文芸社 2013年

その他：実際に障がいをお持ちの方々が来校され、講義をして頂く事があります。その際に、その方々が気持ちよくお話し頂けるような雰囲気をご皆さんで作って下さい。皆さん一人一人の意識で、快適な空間となるよう取り組んでください。

以下のサイトも参照ください。

北海道若年性認知症のひとと家族の会HP <http://www.geocitise.jp/himawari27ad/index.htm>

北海道難病連HP <http://www.do-nanren.jp/>

障がい者当事者講師の会「すぷりんぐ」HP <http://spring-hokkaido.net/>

当別町公式ホームページ <http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/>

【学習の準備】

予習は、次回の授業範囲の内容について教科書や参考書等を活用し準備しておくこと（80分）。

また、特別講師が来る場合、その障がいや疾病について十分に予習しておくこと。

復習は、実施した講義内容や自身が作成したICF項目について、参考書等を活用しながら学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木英樹（理学療法士）、長谷川純子（理学療法士）朝日まどか（作業療法士）、浅野葉子（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関及び介護保険施設・行政からの委託事業などでの実務経験を活かし、講義する。